

Stage8

Mr. Grim's TOWER

グリム氏の塔

作・ダミアン・ハーヴェイ

絵・コーキー・ポール

<読むまえに>

お子さんが読むまえに、この本についてお子さんと話すとよいかもしれません。

表紙と裏表紙を見ましょう。ページをパラパラめくって写真を見て、こんな質問をしてみましょう：

- ・グリムさんは、なぜグリムさんとよばれるんだろう。この本になにか手がかりはあるかな。
- ・この本のなかで、グリムさんにどんなことが起こると思う？

<ひっかかることば>

ここにあげるのは、お子さんがこの本を読むときにひっかかりそうなことばです。

grouchy 機嫌の悪い

thumping ゴツンとあたる

grumpy イライラした

friendly 人なつっこい

hustle 押し合い

countryside 田園地方

twisted ねじれた

sailors 船乗り

[p. 1]

グリム氏の塔

作・ダミアン・ハーヴェイ

絵・コーキー・ポール

[p. 2]

グリム氏は町のまんなかに住んでいました。グリム氏はじぶんの住む家は好きでしたが、町の混雑はきらいでした。あまりにもおおぜいの人たちがいましたし、あまりにもうるさすぎたのです。

<グリム氏の家>

[p. 3]

グリム氏には、一日中、馬や馬車が鳴らすカタカタという音が玄関先に聞こえました。グリム氏は仕事をするのができませんでした。そのせいで、グリム氏はとてもイライラしていました。「静かにしろ！」グリムさんは大声をあげました。

[p. 4]

グリム氏には、一晩中、通りで人が歌う声が聞こえました。また、人びとがじぶんたちのベッドでかいているいびきの音が聞こえました。グリム氏は眠ることができませんでした。そのせいで、グリム氏はとても不機嫌になりました。「静かにしろ！」グリムさんは大声をあげました。

「ガゴー」

「ぼくらは、ゆかいに歩く……」

「静かにしろ！」

[p. 5]

人びとはグリム氏を見かけると、こういいました。「気をつけて！ グリムさんがこっちにくるよ。すぐイライラして不機嫌な人だからね」

そこである日、グリム氏は決心しました。グリム氏は、崖のうえにたつ高い塔で暮らすために、荷物をカバンにつめこんで引っ越したのです。

[p. 6]

塔は古く黒ずんでいましたが、グリム氏は気に入っていました。人にじゃまされず、静かなところが好きでした。階段がまわりながらねじれててっぺんまで続いているところも好きでした。

なによりも、グリム氏は、大きな丸い窓からのながめがお気に入りでした。

[p. 7]

塔から、グリム氏ははるか向こうに町のにぎわいを見ることができました。

塔から、グリム氏は田園地帯の丘や林を見ることができました。

[p. 8]

いちばんは、海が遠くまで見えることでした。グリム氏は窓のそばにすわっているのが好きでした。

船が帆をはってとおり過ぎていくのを見ているのが好きでした。背の高い船もあれば長い船もありました。櫂(かい)でこぐ船もあれば手こぎのボートもありました。

[p. 9]

でもグリム氏はまだ、心の底からしあわせではありませんでした。昼の間、訪ねてくる人はだれもいません。塔は黒ずんで気味がわるく見えます。グリム氏はいまだにイライラして不機嫌に見えました。グリム氏が手をふると、みんな逃げていきました。

[p. 10]

カモメだけが訪ねてきましたが、ただフンで汚していただけでした。グリム氏は大半の時間をそうじについやさなければなりません。「あっちへ行け！」グリム氏は大声をあげて、カモメたちにげんこつをふりまわしました。

「あっちへ行け！」

[p. 11]

夜になると、塔はまっくらでとてもうす気味わるく見えました。グリム氏は眠れませんでした。大きな船も小さな船も、崖が見えません。船は崖に衝突しました。ゴツン、ドスンという音のために、グリム氏は目がさめたままでした。

<ドスン>

「ごめんなさい」

[p. 12]

たまに眠りにつけても、こんどは船乗りたちが訪ねてきて扉をたたく音で目をさまされました。暖かい飲みものや毛布を求めてくるのです。

「あっちへ行け！」グリム氏は大声をあげました。グリム氏は頭にまくらをかぶせました。

「あっちへ行け！」

[p. 13]

すぐに船乗りたちは訪ねてきて扉をたたくことをやめました。もうグリム氏の塔を訪ねてくるものはだれもいなくなりました。くるのは汚し屋のカモメたちだけです。そのせいで、グリム氏は、ほんとうに不機嫌な気分になりました。

[p. 14]

ある日、グリム氏は鏡をのぞきました。目にしたものに顔をしかめました。「おまえってやつは、なんて不機嫌で、イライラした毛むくじゃらのじいさんなんだ」グリム氏は言いました。「変わらなくちゃ！」

[p. 15]

そこでその翌日、グリム氏は心をきめました。グリム氏は、一年にいちどだけのヒゲそりと散髪をするために町へでかけました。

「だいぶよくなったぞ」グリム氏はそう言って、少しだけニヤツとしました。

[p. 16]

床屋さんから出たところで、ある考えがふってわいてきました。グリム氏は「バートのお買い得店」に飛び込んで、ペンキをいくつか買いました。塔に引き返すと、グリム氏は作業にとりかかりました。

<バートのお買い得店>

<理髪店>

[p. 17]

グリム氏はペンキ用のブラシを見つけてきました。そしててっぺんから下まで塔をペンキでまっしろにぬりました。

「できたぞ」グリム氏は言いました。「さあ、あのカモメどもも好きほうだいに汚せばいいさ。だれも気づきやしないからな！」

[p. 18]

それからグリム氏は、明るい赤のらせんの輪を塔にぬりました。元気で人なつっこく見えるようにしたかったのです。

[p. 19]

次にグリム氏は、塔のてっぺんに大きな照明をとりつけました。これでだれもがこの塔を、暗やみのなかからさえ見えるようになりました。「さあ、だれも崖に衝突しなくなるぞ」グリム氏はうれしそうに言いました。「これですこしは眠れるようになる」

[p. 20]

グリム氏の住まいは、もうのっぼの黒ずんだ塔には見えませんでした。のっぼの明かりの家に見えます。昼の間、人びとがグリム氏ののっぼの明かりの家を見にやってきました。人びとは塔を見てほほえみしました。グリム氏もほほえみを返しました。

[p. 21]

夜は、船乗りたちがほほえみしました。船乗りたちはグリム氏の住まいのてっぺんの明かりを見まし

た。その明りは、船乗りたちに、先のほうに崖があることに注意するよう教えてくれました。

[p. 22]

グリム氏はのっぼの明かりの家において、しあわせでした。イライラしたり、不機嫌に思ったりすることをやめました。グリム氏のことを人びとが「にこにこグリムさん」とよぶようにさえなりました。これがまたグリム氏をうれしくさせるのでした。

<見学>

[p. 23]

グリム氏ののっぼの灯台は、とても有名になりました。世界中の崖のうえに明かりの家がたくさんたくさん建てられました。たぶんみなさんも、見たことがあるでしょう。

[p. 23]

灯台

- ・灯台は巨大な懐中電灯のようなものです。夜の間、明かりが輝きます。明かりは、船がじぶんたちの進む方角を見つけたり、岩に衝突するのを防いだりする役にたちます。
- ・現在では、ほとんどの船がじぶんたちの進む方角を見つけるのにコンピュータを使っています。灯台は必要としていません。
- ・多くの灯台が、いまでは博物館や観光の名所になっています。なかには人の住む家になった灯台もあります。

みなさんは灯台に住みたいですか。

<読んだあとで>

読んだあとで、この本についてお子さんと話しましょう。こんな質問をしてみましょう：

- ・お話のはじめのほうで、町の人たちはグリム氏のことをどのように思っていたかな？ お話のおしまいでなぜグリム氏のことをすきになったのかな？
- ・グリム氏はお話の最後ではどういう気持ちだったと思う？
- ・この本を読んでどんな気持ちになった？

この話をまた読んでみるよう、お子さんにすすめましょう。お子さんの自信をそだてます。

<ほかにすること>

身のまわりのものを使ってじぶんの灯台を作ってください。キッチンペーパーの芯はどうでしょう？